

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572214054		
法人名	有限会社せきれい		
事業所名	グループホームせきれい苑		
所在地	秋田県山本郡三種町鯉川字内鯉川108-4		
自己評価作成日	令和2年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の楽しみ事を増やす為、毎月レクリエーションの日を設け、歌やゲーム、おやつ作りなど企画し、職員一体となって活動している。 ・一人ひとりの生活歴・能力・特徴の把握に努め、必要な支援や課題を話し合い、チームケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>調理職員を採用したことで利用者に関わる時間が増え、ケアの充実に繋げていけるよう取り組んでいます。コロナ禍にあって生活範囲が限られている今をその機会と捉え、意識的に利用者とのコミュニケーションをとることであらためて利用者を知ることに繋がり、利用者一人ひとりに合わせたケアを目標にしています。そのために会話やドライブ、日々関わることで本人の反応をアセスメントに繋げ、ホームでの生活に活かせるよう努力しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりの自由と安らぎを目指し、支援に努めている。	個別のケアに重点を置き、利用者との関わりを増やしてその人を理解することで、理念に沿った生活ができるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町のイベント、他施設行事、保育園等、積極的に交流している。	イベント情報を交換する等して保育園児とは定期的に相互交流していますが、今は新型コロナウイルス感染防止のため保育園に限らず、全ての交流行事が中止となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域に出かけたり、運営推進会議で情報提供しながら、地域とのつながりを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容や、いただいた意見やアドバイスを全体で共有し、サービス向上に活かしている。	現在はホームからの資料送付のみとなっていますが、対面で開催される際には参加者の意見が聞ける貴重な場となっており、サービス利用に繋がった事例もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは運営推進会議の他、必要に応じて情報交換し、関係づくりに努めている。	多職種参加の会議に参加して情報交換し、電話や運営推進会議の場で相談に対応していただく等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修を通じて意識統一を図り、身体拘束について、正しく理解できるよう努めている。	内部研修を行って職員の理解を深めています。利用者の状況によっては検証を行い、身体拘束に繋がらない対応を検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修で再認識する機会をつくり、スタッフのストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修にて、パンフレットなどの資料を用いて、基本的理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に利用者や家族の意向を確認し、苑の方針も十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回8月に家族アンケートを実施し、結果を全体や運営推進会議で共有し、運営に反映できるよう努めている。	アンケートで出された意見、要望から改善に繋がった事例も多く、サービスの向上に役立っています。アンケート結果は家族にも公表しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングや年2回のスタッフアンケートで、職員の意見や提案を受け取る機会をつくり、出た意見等も前向きに検討している。	アンケートでは職員の思いや提案等が出されて業務の見直しや設備の改善等が行われており、職員の率直な意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持てるよう、職場環境の改善に努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体での苑内研修の他、ユニットミーティングやユニット内のカンファレンス等で、職員一人ひとりの把握に努め、その都度指導出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、イベント等を通じて、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、利用者本人の不安や想いを傾聴し、職員で情報共有し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、ご家族の意向を確認し、ケアプランにも盛り込んでいる。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が共に支え合う関係を心がけ、出来る事はご自分で行えるよう支援している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の理解と協力を得ながら支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所・物などを日常的に日々のコミュニケーションの話題に組み込んだり工夫し、支援に努めている。	思うように面会ができない状況が続き、家族とは電話で関わりが保てるように対応しています。日常会話からヒントを得て利用者の思いに沿えるよう努めている他、本人の思い出の場所へのドライブは続けています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握に努め、状況に応じて仲介したり、職員と一緒に作業等を行い、孤立しないよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況や必要に応じて相談にのったり、アドバイスしながら支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の訴えや要望を汲み取るよう努めており、意思表示や判断が困難な場合は、表情や仕草等、様々な情報を観察し把握に努めている。	業務中や入浴時等に利用者とコミュニケーションを図って意向が引き出せるように努めています。気づいたことを記録して、ホームでの生活に活かせるよう話し合っています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族、又は担当のケアマネから詳しく伺い、把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り一人ひとりのペースに合わせてつつ、さりげない声かけや介入で現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を反映させ、日々ユニットでカンファレンスしている内容をケアプランへ盛り込んでいる。	家族の意向を取り入れながら本人本位の介護計画となるようにカンファレンスで意見を出し合って作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、日々ユニットでカンファレンスを実施し、ケアプランの見直し時活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や情報収集に努め、日々のケアに活かしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医についてご本人やご家族の意向に沿いながら対応している。状況に応じて、往診可能な医師を紹介させていただくこともあり、かかりつけ医とは良好な関係づくりに努めている。	入居前からのかかりつけ医で家族と通院している方もおり、それぞれの希望に沿って支援しています。歯科受診については訪問診療が可能であり、協力医からは緊急時に対応していただくこともでき、適切な支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回(木曜日)来苑の他、随時電話で相談できる体制となっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時だけでなく、必要に応じて情報交換や共有に努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、必要に応じてご本人やご家族と話し合いの場を持ち、意向を把握し、チームケアを心掛けている。	これまで2例の看取りの経験があります。重度化した場合には家族の意向を踏まえて支援できるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや苑内研修を活用し、確認し合っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施したり、シュミレーションを行っている。	避難訓練の他、停電や断水の対応訓練も行っています。運営推進会議でも話し合っていますが、実際の避難には地域の協力が不可欠であり、時間と方法を再検証しながら訓練を重ねていかれることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った対応を心がけ、職員が統一したケアが出来るよう、話し合いの場を持っている。	個別の対応を心がけており、声かけ等で気になる点がみられた場合には職員会議で話し合っています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のその人らしさを尊重した対応を心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや希望を把握し、身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から調理・片付けまで、利用者と一緒にやっている。	利用者の希望を聞きながら献立を決め、その人に合った形態で食事を提供しています。レクの日に皆で一緒につくったり、誕生日でいつもと違った雰囲気を楽しめるよう工夫しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量を一人ひとりに合わせて考え、対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせて、毎食後の口腔ケアの声かけや付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、自立に向けた支援を行っている。	チェック表で管理して排泄用品の軽減と自立に向けて努力しています。改善例もみられ、本人の自信にも繋がっています。夜間のポータブルトイレ使用等、その人の状態に合わせて支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、出来るだけ食事や水分・運動で改善・予防できるよう、取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に添える様に柔軟な対応を心がけ、職員で協力体制をとっている。	午前、午後に入浴時間を設定しており、拒否のある方や冷え性の方に配慮し、介助に職員が2人必要な方も安全に入浴できるように対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やペースに合わせてながら対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬の内容を職員で確認し合い、看護師・主治医の助言も得ながら対応している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや能力に応じた楽しみ事を考えたり働きかけ、支援に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を取り入れ、外出やイベントを計画したり、ご家族と外出される方もおり、出来る限り皆が出かけたり楽しめるように工夫している。	思うように外出ができない状況ではあるものの感染防止を図りながらドライブしたり、周辺を散歩したり、個別の希望にもできる限り応えられるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって、ご自分で所持金を管理されている方もおり、トラブル防止に努めながら支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って、電話や手紙のやり取りなど、出来る限り対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて苑内の装飾など、利用者で作成したり、時間がわかるよう声かけを工夫している。	換気を意識して行い、業務日誌にも記録して感染症に注意しています。家族が撮影した写真や利用者と一緒に作った季節が感じられる作品が掲示されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが心地よく過ごせるよう、個々のペースを尊重し、努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や好みの物を身近に置いたり、工夫し、安心して過ごせるよう支援している。	自宅で慣れ親しんだものや思い入れのあるものを身の回りに置いて在宅時と同様の暮らしができるように配慮したり、受診の帰りに買った鉢植えのお世話をしたりと家族と共に安心できる環境づくりをしています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者が安心できるよう、トイレや居室へ目印を付けたり、安全面に配慮し、工夫に努めている。		